

主語になる要素をとらえる (1)



次の文の主語を□で囲み、述語動詞に を引き、日本語に直しましょう。

- 1 The old man told the story to us.
- 2 The old man telling the truth was crying in tears.
- 3 The old man told the story cried.



基本構造を知る 長い名詞句が主語になる場合

文の中で、「誰が」「何が」にあたる要素を〈主語〉といいます。主語になるのは〈名詞〉です。ここで、文の構成要素と品詞の関係を改めて確認しておきましょう。

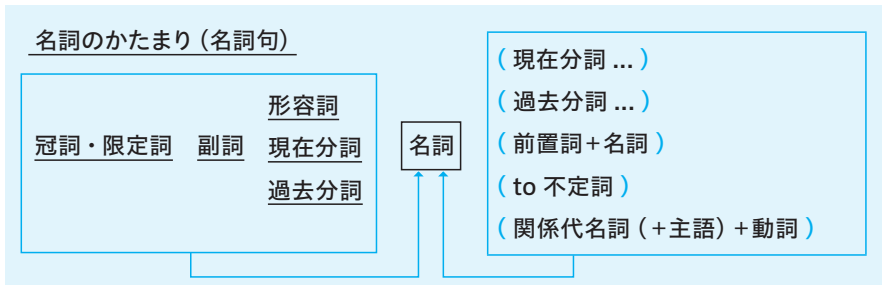
だれ・なに	する(です)	だれ・なに	どこ	いつ
名詞	動詞	名詞 形容詞	副詞	副詞
(主語)	(述語動詞)	(目的語/補語)		

※〈意味順〉では、主語にあたるボックスは「だれが」となっていますが、実際には人以外のものが主語になることもあるので、本書では「だれ・なに」と表記することにします。

英文は〈主語+動詞〉で始まりますが、主語になる名詞の前後にさまざまな要素が付いて長くなると、主語に対する動詞がなかなか出てこないのが、主語と動詞がとらえにくくなってしまいます。ここでは、長い名詞句が主語の文のとらえ方を練習していきましょう。

名詞の後ろに過去分詞が続く場合に注意

まず、第4課で学んだ名詞句の見取り図を改めて確認しておきましょう。



特に、名詞を後ろから修飾する要素は、長くなることが多いので、どこまでが名詞句かを判断する時に注意が必要です。その中でも、〈主語+動詞〉をとらえる上で、特に間違え

やすいのは、**名詞の後に過去分詞が続いている場合**です。動詞には tell-told-told のように過去形と過去分詞が同じかたちのものであるので、判断に迷うことがあります。そのような場合は、後に続く要素で過去形か過去分詞かを判断する必要があります。



基本構造に迫る

1 The old man told まで見たところで、The old man が主語、told が述語動詞と考えて読み進めると、the story が来て、to us という〈前置詞＋名詞〉で文が終わっているので、予測どおり told は動詞の**過去形**で、the story が told の目的語になっているとわかります。

The old man told the story <to us>.

正解 老人はその話を私たちに聞かせてくれた。

2 The old man telling まで見たところで、telling が**現在分詞**であることに注目しましょう。現在分詞は〈be 動詞＋現在分詞〉で〈進行形〉を作りますが、ここでは be 動詞がありません。そこで、**現在分詞が名詞を後ろから修飾している**と考えてみます。すると、the truth の後に was crying という動詞が出てきます。そこで、the truth までが〈**名詞＋現在分詞**〉の形をした**名詞句**で、was crying が述語動詞だとわかります。cry in tears は「涙を流して泣く」という意味です。

The old man (telling the truth) was crying <in tears>.

↑
現在分詞

正解 真実を語っている老人は涙を流して泣いていた。

3 The old man told the story まで見たところで、The old man が主語、told が述語動詞と考えて読み進めると、cried という動詞が出てきました。cried は〈人〉のような生物を主語にとる動詞なので、told を述語動詞として読むと、この cried に対応する主語がないこととなります。そこで、told は**過去分詞**で、**名詞を後ろから修飾している**と考え、この文の述語動詞は cried で、「その物語を聞かされた老人は泣いた」という意味になるとわかります。

The old man (told the story) cried.

↑
過去分詞

正解 その物語を聞かされた老人は泣いた。